



鈴鹿には、それぞれの時代に大きな足跡を残した先人たちがいます。

異国の地から**奇跡の帰国**を果たし、

海外の情報を伝えた大黒屋光太夫。

日本の短歌界を先導し、

数々の**名歌**を残した歌人・佐佐木信綱。

そして、人々の暮らしを支える橋を架け、

地域の発展に尽くした前川定五郎。

時代を切り拓いた3人の歩みをたどりながら、

その人柄や功績に触れてみませんか。

大黒屋光太夫

極限の海を生き抜き、

ロシアから生還した漂流者

江戸時代後期、白子から出航するも、激しい暴風雨によって漂流、アリューシャン列島へと漂着した船頭・大黒屋光太夫。絶望的な状況の中、カムチャツカ、シベリア、ペテルブルグと移動した光太夫は、ロシア皇帝エカテリーナ2世との謁見を果たし、約10年の歳月を経て奇跡的な帰国を遂げました。

異国の文化をしなやかに吸収して持ち帰った光太夫は、日本の外交政策や蘭学の発展に大きな影響を与えました。



大黒屋光太夫書「鶴」

松前城下を行く光太夫一行
(松前堅之図)



佐佐木信綱

ふるさと石薬師を愛し、

近代短歌を築いた歌人

現在の石薬師町出身の歌人・国文学者の佐佐木信綱は、短歌結社「竹柏会」を結成し、明治31(1898)年に創刊した『心の花』を機関紙として、多くの門人を育成するなど、短歌の普及に大きな足跡を残しました。

また、『校本万葉集』の刊行などの功績により第1回文化勲章を受章したほか、唱歌「夏は来ぬ」の作詞者としても知られています。



竹柏会 歌誌『心の花』



信綱と竹柏会門人たちとの集合写真
(大正14(1925)年4月 椿山荘にて)

前川定五郎

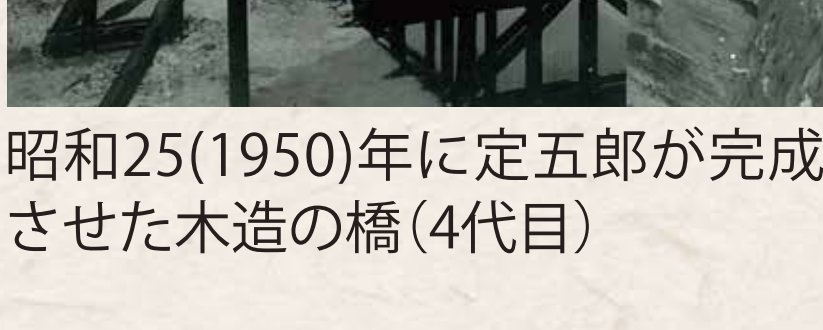
人の喜びは我が喜び、

架橋に生涯を捧げた奉仕者

現在の甲斐町出身の前川定五郎が生きた明治時代は、生活の要であった鈴鹿川が、雨で増水するたびに人々の命を脅かし、生活を困窮させていました。それを見た定五郎は「安全に渡れる橋をつくらう」と決意。私財を投じた橋は何度も流されましたが、明治41(1908)年、77歳にして本格的な橋が完成し「定五郎橋」と命名されました。



現在の定五郎橋(5代目)



昭和25(1950)年に定五郎が完成させた木造の橋(4代目)

特別展

佐佐木信綱記念館

信綱と女流歌人たち

女流歌人たちに焦点を当て、門人であった
かたやまひろこ やなぎわらびやくれん
片山廣子、柳原白蓮らが信綱に宛てた書簡や
原稿を通して、深い師弟関係を紐解きます。
短歌革新運動の時代をともにした樋口一葉や
ひぐちいちよう
与謝野晶子との交流を示す資料も紹介します。
よさのあきこ

■ 開催期間

11月11日(水)～令和9年1月24日(日)

■ 展示会説明会

11月27日(金)13時30分から(約30分)



展示室内観

大黒屋光太夫記念館

漂流ヒーローズ

一大黒屋光太夫と

まんじろう
ジョン万次郎が開いた世界一

2つの漂流事件について、両者がたどった
道程、持ち帰った異国の知識、帰国後の人生
を比較し、その漂流体験の特徴と、その後の
日本社会に与えた影響を紹介します。

■ 開催期間

11月19日(木)～12月27日(日)

■ 展示会説明会

11月20日(金)13時30分から(約30分)



先人たちのゆかりの地はココ！
資料館に行ってみよう



佐佐木信綱記念館

石薬師町 1707-3



前川定五郎資料室

岡田一丁目 29-1

(牧田小学校内)



大黒屋光太夫記念館



若松中一丁目 1-8



江戸時代の日本に海外の情報
を伝えた光太夫、近代短歌の発
展と万葉集の研究に大きく貢献
した信綱、私財を投じて地域の暮
らしを支える橋を架けた定五郎。
鈴鹿の先人たちが歩んだ道や生
きた時代は異なりますが、その生
き様からは故郷への深い思いや、
困難に立ち向かう強い情熱が感
じられます。本特集をきっかけに、
記念館や資料室へぜひ足を運ん
でみてください。貴重な資料や展
示を通して、3人の業績や人とな
りに触れていただき、新たな発見
をする機会にしていただければ
幸いです。



たなか さとみ

文化財課 学芸員 田中 里美

今回の特集に関するご意見・ご感想

文化財課

☎ 059-382-9031

☎ 059-382-9071

✉ bunkazai@city.suzuka.lg.jp